

- 問1 ヨーロッパ南部の地中海沿岸に位置するイタリアでは、夏の乾燥する気候を利用して、オリーブやブドウ、柑橘類などの栽培が行われています。また、北部の平野部では冬小麦の栽培も盛んです。このような気候条件や地形に合わせて、自給用の穀物と商品作物の栽培を組み合わせた農業を何と呼びますか。（2024年 東京都公立入試 類似）
1. 酪農 2. プランテーション 3. 地中海式農業 4. 混合農業
- 問2 日本のエネルギー供給は石炭・石油・天然ガスなどの化石燃料が8割以上を占めていますが、ドイツなどのヨーロッパ諸国では、これら化石燃料の割合を6割程度に抑える一方で、太陽光や風力などを利用したエネルギーの供給割合を2割以上に高めています。このような、自然界に常に存在し、繰り返し利用することが可能なエネルギーの総称として正しいものはどれですか。（2019年 福島県公立入試 類似）
1. 再生可能エネルギー 2. バイオマスエネルギー 3. 化石エネルギー 4. 原子力エネルギー
- 問3 ヨーロッパの農業において、混合農業が地中海沿岸の農業と比べて、家畜の飼育を重視しながらも穀物栽培を組み合わせている主な理由は何ですか。（2022年 奈良県公立入試 類似）
1. 地中海沿岸では家畜の需要が全くなく、肉類を消費する文化が西ヨーロッパ特有のものだから。 2. 地中海沿岸に比べて夏に一定の降水量があり、家畜の餌となる飼料作物や穀物の栽培に適しているため。 3. アルプス山脈より北の地域では、冬の寒さが厳しすぎて果樹の栽培が一切不可能だから。 4. 家畜を育てるための広大な牧草地が不足しており、穀物栽培を代わりに行う必要があるから。
- 問4 EU（欧州連合）域内での自由な移動の影響について説明した次の文章の（ ）に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。「EU内では国境を越えた移動が自由であるため、所得格差を背景に（ ）から（ ）へと人々が移動する傾向がある。その結果、（ ）の諸国では、働き手が流出することによる（ ）が大きな社会問題となっている。」（2024年 大分県公立入試 類似）
1. ① 南ヨーロッパ ② 西ヨーロッパ ③ 出生率の急激な上昇 2. ① 東ヨーロッパ ② 西ヨーロッパ ③ 労働力の不足 3. ① 東ヨーロッパ ② 北ヨーロッパ ③ 人口密度の過密化 4. ① 西ヨーロッパ ② 東ヨーロッパ ③ 失業率の上昇
- 問5 EU加盟国における経済状況の変化について、2005年から2017年の統計に基づいた分析として正しい記述はどれですか。なお、ここではバルト海沿岸の国々を比較の対象とします。（2020年 福島県公立入試 類似）
1. 新しく加盟した国々は、一人あたりの国民総所得の額そのものは大きいものの、経済成長が頭打ちになったため、増加率がマイナスに転じている。 2. 2001年以降に加盟した国々の一人あたりの国民総所得は、2005年時点では1万ドル未満であったが、2017年までに約2倍に増えている。 3. すべてのEU加盟国において、2005年から2017年にかけて一人あたりの国民総所得の増加率は一定であり、加盟時期による経済成長の差は見られない。 4. 2001年以前からの加盟国の一人あたりの国民総所得は、2005年から2017年にかけて大幅に減少し、新しく加盟した国々の水準を下回った。
- 問6 ヨーロッパ諸国のエネルギー政策に関する記述として、原子力発電を一切利用せず、火力発電のほかに水力発電や再生可能エネルギーを組み合わせ、電力を確保している国として正しいものを次の中から選びなさい。（2018年 愛知県公立入試 類似）
1. イギリス 2. ドイツ 3. フランス 4. イタリア
- 問7 国内で消費される食料のうち、どの程度を国内生産で賄えているかを示す指標を「食料自給率」と呼びます。オランダやフランスといったヨーロッパの国々が、日本と比較して小麦や乳製品の食料自給率が高い水準にある理由として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 徳島県公立入試 類似）
1. 国土の大部分が乾燥帯に属しており、限られた水資源を輸出用の果実や野菜の栽培だけに集中させているため。 2. 広大な農地や平坦な地形を活かし、高度に機械化された大規模な農業や効率的な酪農が行われているため。 3. 山地が多く耕作面積が限られているため、生産コストを下げるためにあえて特定の高級食材の生産のみに特化しているため。 4. 降水量が極めて多いため、主食である米の生産を優先しつつ、余った土地をすべて小麦の栽培に充てているため。
- 問8 ヨーロッパの地形について、イタリアの北方に位置するアルプス山脈が、北欧の山脈と比較して標高が高く、非常に険しい地形となっている理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2014年 愛媛県公立入試 類似）
1. 新期造山帯に属しており、現在も地殻変動が活発で隆起する力が強いため。 2. 安定陸塊に属しており、氷河によって地表の柔らかな土砂がすべて削り取られたため。 3. 古期造山帯に属しており、長期間の浸食を受けたことで岩肌が露出しているため。 4. 環太平洋造山帯の一部であり、プレートとの沈み込みに伴う激しい火山活動が繰り返されたため。
- 問9 地中海沿岸の地域において、オリーブやブドウといった果樹栽培が伝統的に盛んである理由について、気候の観点から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 冬の寒さが極めて厳しいため、冬を越える耐寒性の強い永年性の果樹を植える必要があるから 2. 夏の時期に降水量が極端に少なく乾燥するため、乾燥に強い性質を持つ樹木を選ぶ必要があるから 3. 夏に連日激しいスコールが降るため、多湿な環境でも根腐れしにくい作物を選ぶ必要があるから 4. 一年を通じて高温多湿であり、果実の成長が非常に早いから、収穫効率が良いから
- 問10 世界の統計データにおいて、1人あたりの国内総生産（GDP）が1万ドルを超えており、年間の二酸化炭素総排出量が1500百万トン程度の規模を持つ国があります。この国の排出量が多い背景として、最も適切な説明はどれか。（2018年 兵庫県公立入試 類似）
1. 広大な国土と寒冷な気候により、暖房や輸送のためのエネルギー消費が多く、原油や天然ガスなどの資源産業も盛んであるため。 2. アフリカ大陸で有数の経済規模を誇り、金やダイヤモンドなどの鉱業が盛んであるが、1人あたりの国内総生産は5000ドル程度にとどまっているため。 3. 人口が世界で最も多く、急速な経済発展に伴う工業化によって、石炭を中心としたエネルギー消費が爆発的に増加したため。 4. 1人あたりの国内総生産はまだ低い水準にあるが、人口が14億人を超えており、安価な電力を供給するために石炭火力発電に依存しているため。
- 問11 EU（欧州連合）域内における「経済格差」がもたらしている状況や、それに関連する動きについて述べた記述として正しいものはどれですか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
1. 国民総所得の低い国々の経済を底上げするため、EUは域外の特定の国に対してのみ、例外的に高い関税をかけることを禁止している。 2. 賃金水準の低い東ヨーロッパの国々から、より高い賃金を求めて西ヨーロッパの国々へ労働者が移動する現象が見られる。 3. 経済発展の遅れている東ヨーロッパの国々を保護するため、EU域内では国ごとに農産物や工業製品への関税が維持されている。 4. 加盟国間の経済格差をなくすために、EU域内を移動する労働者に対しては、国をまたぐごとに高額な移動税を課している。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 地中海式農業	夏に雨が少なく乾燥する地中海性気候の特性をいかし、乾燥に強いオリーブや果樹、そして冬の雨を利用して育つ小麦などを栽培する形態です。イタリアをはじめとする地中海沿岸諸国で広く見られる伝統的な農業です。
問2	答え 1 再生可能エネルギー	地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素の排出を抑えるため、世界的に石炭や石油といった化石燃料への依存を減らす取り組みが進んでいます。ドイツなどのヨーロッパ諸国では、地形や気候条件を活かした風力発電や太陽光発電の導入を国を挙げて推進しており、これらは自然のサイクルの中で繰り返し得られるため再生可能エネルギーと呼ばれます。日本においても導入が進められていますが、2015年時点の統計では供給割合が1.5%にとどまるなど、欧州諸国と比較して普及に向けた課題が多いのが現状です。
問3	答え 2 地中海沿岸に比べて夏に一定の降水量があり、家畜の餌となる飼料作物や穀物の栽培に適しているため。	西ヨーロッパや中央ヨーロッパは、地中海沿岸（地中海性気候）のように夏に極端に乾燥することがなく、年間を通じて一定の降水があります。この気候条件が、家畜の餌となる牧草や、小麦・ライ麦などの穀物栽培を両立させることを可能にしています。地中海沿岸では夏の乾燥が強いため、乾燥に強い樹木作物（オリーブなど）が中心となります。
問4	答え 2 ① 東ヨーロッパ ② 西ヨーロッパ ③ 労働力の不足	EU域内では、経済的に豊かな西ヨーロッパ諸国と、旧社会主義国が多い東ヨーロッパ諸国の間に賃金格差が存在します。そのため、より良い生活条件を求めて東ヨーロッパから西ヨーロッパへ人々が移動します。この結果、東ヨーロッパでは自国で働く人々が減少し、経済成長を支えるための「労働力の不足」が顕著になっています。これは地域格差の是正を目指すEUにとっての大きな課題の一つです。
問5	答え 2 2001年以降に加盟した国々の一人あたりの国民総所得は、2005年時点では1万ドル未満であったが、2017年までに約2倍に増えている。	バルト海沿岸のEU加盟国における一人あたりの国民総所得の変化を見ると、2001年以前からの加盟国（デンマークなど）は、2005年時点で3万ドルから4万ドルを超える高い水準にありました。一方で、2001年以降に加盟したエストニアやリトアニアなどの国々は、2005年時点では7,000ドルから9,000ドル台という低い水準でしたが、2017年までにはその数値が約2倍にまで成長しています。このように、所得の低い国々がより高い増加率を示すことで、EU全体の経済格差を縮小させようとする動きが見られます。
問6	答え 4 イタリア	イタリアは、1980年代の国民投票の結果などを受けて、原子力発電所を稼働させない方針を継続しています。電力不足を補うために、国内での火力・水力・再生可能エネルギーによる発電に加え、フランスなど近隣諸国から電力を輸入することで需要に対応しています。
問7	答え 2 広大な農地や平坦な地形を活かし、高度に機械化された大規模な農業や効率的な酪農が行われているため。	ヨーロッパ諸国、特にフランスやドイツ、オランダなどは、大規模な農地で機械を導入した効率的な生産を行っています。小麦や乳製品は、こうした平坦な地形や気候に適した産業であり、土地生産性や労働生産性が高いため、自国の消費を上回る供給が可能となっています。一方、日本は山地が多く農地が細分化されているため、これらの品目の自給率は低くなる傾向にあります。
問8	答え 1 新期造山帯に属しており、現在も地殻変動が活発で隆起する力が強いため。	アルプス山脈は、中生代以降の比較的新しい時代に形成された「新期造山帯」に分類されます。この地域では現在もプレートの運動による隆起が続いており、風雨や氷河による浸食を受ける速度よりも山が盛り上がる力のほうが強いため、鋭く険しい峰々が維持されています。対照的に、北欧のスカンディナビア山脈などは古い時代に形成された「古期造山帯」であり、長年の浸食によりなだらかな地形になっています。
問9	答え 2 夏の時期に降水量が極端に少なく乾燥するため、乾燥に強い性質を持つ樹木を選ぶ必要があるから	地中海性気候の大きな特色は「夏に乾燥し、冬に雨が降る」という点にあります。一般的な農作物の成長期である夏に雨が少ないため、水分を逃がさない厚い葉を持つオリーブや、深く根を張るブドウといった、厳しい乾燥に耐えられる作物を選んで栽培する地中海式農業が発達しました。
問10	答え 1 広大な国土と寒冷な気候により、暖房や輸送のためのエネルギー消費が多く、原油や天然ガスなどの資源産業も盛んであるため。	記述された統計数値（1人あたりのGDPが1万ドル超、二酸化炭素排出量が約15億トン）に該当する国はロシアである。ロシアは広大な領土を持ち、冬の寒さが厳しいため暖房や移動に多大なエネルギーを必要とする。また、主要産業が原油や天然ガスなどのエネルギー資源の採掘・輸出であることも、二酸化炭素排出量が多くなる要因となっている。選択肢にある中国やインドは、総排出量こそ多いものの、1人あたりの国内総生産はロシアと比較すると低い水準にあるため区別できる。
問11	答え 2 賃金水準の低い東ヨーロッパの国々から、より高い賃金を求めて西ヨーロッパの国々へ労働者が移動する現象が見られる。	EU内では「人・もの・お金・サービス」の移動が自由化されています。このため、経済格差がある状況下では、所得の低い東ヨーロッパの国々から、ドイツやフランスといった所得の高い西ヨーロッパの国々へ多くの労働者が移動することになります。これは労働力の確保というメリットがある反面、移動先の国での雇用競争や社会保障負担の増加、あるいは移動元の国での人手不足といった新たな問題を引き起こす要因にもなっています。